

平成25年度第3回鎌倉市環境審議会会議録

- 1 **開催日時** 平成25年11月29日（金）午後1時30分から4時まで
- 2 **開催場所** 823会議室（第4分庁舎2F）
- 3 **出席者** 猿田会長、郷原委員、渋谷委員、二松委員、小田委員、村田委員、
亀山委員、川口委員
（欠席：高野委員、木村委員、三島委員、高柳委員）
- 4 **事務局** 松永環境部次長、柳沢課長補佐、
田中環境政策エネルギー担当担当係長、竹之内主事、中川主事
- 5 **幹事** 石井環境部長、小柳出環境施設課長
- 6 **議題** (1) 鎌倉市エネルギー基本計画について
(2) その他

7 配付資料

当日配布資料

資料1 鎌倉市エネルギー基本計画作成素案【抜粋版】

資料2 市民アンケート結果

当日使用資料

* 鎌倉市環境基本計画＜第2期改訂版一部改訂＞

* かまくら環境白書（平成24年度版）

* 鎌倉市地球温暖化対策地域推進計画＜改訂版＞

* 鎌倉市環境教育推進計画

8 会議内容

出席人数の確認、配布資料の確認後、議事に入りました。

議題1 鎌倉市エネルギー基本計画について

猿田会長 それでは議題1に入ります。議題1の「鎌倉市エネルギー基本計画について」事務局から説明をお願いします。

松永次長 議題1 「鎌倉市エネルギー基本計画について」説明

資料1、2に基づき、エネルギー基本計画の概要、市民アンケート結果について説明。

猿田会長 説明は終わりましたので、ご意見を頂戴したいと思います。市民アンケート等についても、ご意見をお願いいたします。

渋谷委員 市民アンケートに「将来のまちづくりを見据えて」とありますが、私の意

見ではまず先に総合的なまちづくりのイメージがあり、それが基本計画で、それに沿って交通インフラの問題など具体的な課題が出てくると思います。

松永次長 市民アンケートでは、エネルギーの軸からみた「ライフスタイルの転換」が見てとれるため、ここではエネルギーの視点からの書き方をしています。そういう意味では総合行政というよりは、エネルギーからみた 2030 年の将来像という性格だと考えています。

猿田会長 市として一番のベースは総合計画なので、例えば環境基本計画の中では環境に関係するところは言えるけれど、その他の分野に踏み込むのは難しいのではないのでしょうか。各々の持ち分の中でどうやっていくかが問題です。県条例、市の条例があり、エネルギーを中心にもものを見ていかなければならないため、割り振りをどうするかという問題があります。

実態的な事は、来年度の実施計画の中で明確にしていくことにはなりますが、今年度は基本計画なので、基本的な方向性を示す必要があります。基本計画として、他の個別計画とどのように調和していくか、環境部の腕の見せ所です。

松永次長 例えば個別計画の 1 つに交通基本計画がありますが、エネルギーという切り口を加えて展開するものになるのが、今回の計画だと自負しています。今まではコストだけで選択してきたかもしれませんが、今後は環境も視野に入れて、横断的に取組んでいくことになります。

猿田会長 環境というものをベースに、最近はかなり庁内横断的になってきたのは事実です。その辺の成果をどう表現するかですね。

郷原委員 照明の LED 化は目玉になってくると思いますが、費用対効果について、環境を重視するあまり高コストな設備を導入する必要があるのかといつも感じています。誰にとっても明るさが変わらないならば、安い方が良いです。街路灯、防犯灯に関しても、具体的な方向性があるのでしょうか。LED 化することで 200 万 kW 相当の省エネ効果が期待できるならば、シンボリックな環境施策になります。

また交通に関しては、民間が購買力の湧く EV や F C V を開発してくれれば、それが交通政策として成り立つのではないのでしょうか。メインの施策は、環境政策面から予算をしっかりと確保して実施するべきです。

松永次長 具体的な検討は、実施計画の中で庁内横断的にやっていかなければなりません。今年度の庁内 LED 化 2,500 本に関しては、LED 化の影響や費用対効果を考慮して施設を検討した結果の本数で、それ以外の照明についてはこまめな消灯の方が適しています。リーディングプロジェクトの中で、さらに検証しながら進めていきます。

防犯灯は市の持ち物ではないため、所有権譲渡をして ESCO 事業を実施するなどの方法を検討しています。他市での事例もあるため、リーディングプロジェクトの中でどこまで鎌倉市で実施出来るのかを、問題点も含めて検討していきます。

郷原委員 LED 化は、目玉になる方策としては良いと思います。

猿田会長 LED 化することで省エネにはなりますが、高価です。そこで費用対効果

という問題が出て来ますが、単年度ではなく、長期的な視点で見る必要があります。

郷原委員 計画期間である 30 年間のスパンで実施すれば良いと思います。蛍光灯は目に影響があるのではないのでしょうか。学校や教育施設でも、LEDに入れ替えた方が良いのではないのでしょうか。

川口委員 これまでもレポートで鎌倉市のエネルギー消費では家庭部門の占める割合が高いと言われており、家庭での省エネが大切だと分かります。築 30 年の物件をスマートハウス化していくのは理想的ですが、書きぶりが少し過剰ではないかと思えます。市民アンケートにも、コストが障壁だとあります。リーディングプロジェクトとしてどの程度書き込めるのかが課題ではないのでしょうか。

交通に関して、様々な視点で交通社会実験を進めるとあり、良いことだと思えます。民間のイノベーションの部分で効率化し、総体としての交通量をコントロールするのは、環境行政だけでは出来ない部分もあるので、そこをどこまで書き込むか。今までロードプライシングの話は出てきていたし、ICTについても東工大で調査されています。ロードプライシングがあり得るのかも含め、もう少し具体的に書くと良いと思えます。

松永次長 来年度、環境政策課が交通部門と一緒にやっていきたいものを提案しています。ロードプライシングは、交通部門に進捗状況を確認して対応したいと思えます。

郷原委員 スマートハウスについて、市が建て替えの施主に対してスマートハウスに推進してくような施策を打つことが必要ではないのでしょうか。30 年前に比べ、たくさんエネルギーを使って暮らす時代になっています。30 年前よりたくさんエネルギーを消費する住居を建てることになるならば、スマートハウスにしてもらう方向性を示すことが重要です。目標が達成できない場合は見直していけばよく、スタート時点では高い目標値を設定してもいいのではないのでしょうか。

松永次長 住宅に注目しているのは、昭和55年以前の建物の比率が鎌倉市は約33%と、県の約24%と比較して多いためです。県より省エネ効果が上乗せできるのではないかと思ひ、施策の柱としていきたいと考えています。

猿田会長 建築担当部署で、積極的に指導をする体制が必要です。

二松委員 再生可能エネルギーについて、風力のポテンシャルが0 となっていますが、小規模風力発電では効率の高いものが出てきており、福岡市で採用している事例もあります。鎌倉市でも、技術的に採用は可能ではないのでしょうか。小水力についても、高専のコンテストが開催されているので、そういったことを鎌倉市でもやらどうでしょうか。ポテンシャルがないことで窓口を閉じてしまわないで、受け入れる方向で考えて頂きたいです。

松永次長 おっしゃるとおりです。鎌倉市でも、平成28年度に笛田公園で3 kWの風力発電を設置する予定です。やらない、できないというのではなく、今後設備機器の技術革新があるという前提です。この章では、一定の量的拡大が期待できるもののみを記載していると但し書きをしています。

二松委員 景観について、太陽光、風力発電設備を持っていることは、スマートシティとしての良い景観である、と意識を変えてほしいと思います。旧鎌倉地区では古都保存という意味で難しいかもしれませんが、景観を害するという考え方を捨てなければ、発展しないと思います。

猿田会長 極端な話、高さ50mの風力発電が設置されれば景観問題になり、規模の問題でもあります。横浜市では、街路樹の間に小さな風力発電を実験的に設置しています。全面的に排除するものではなく、場所との関わりを考えるべきです。

渋谷委員 住宅に関して、代がわりで若い人は他市に出ていき、土地を分割した建売住宅が多くなっています。施主以前に、建売住宅業者がスマートハウスの考え方を持たなければ、良質なものはつくれません。

川口委員 改築や建て替えをする場合、行政からエコのインセンティブがないと、安易な方に流れます。行政によるしくみづくりが大事です。太陽光パネルは少しずつ進化していて、景観と調和するデザインのニーズがあり、今後商品が増えると思われます。風力も、小型で緑の中にマッチするようなものを実験的に取り入れる柔軟性が必要です。

渋谷委員 今は技術的にも進んでいて、太陽光パネルやLEDもしかり、ただ価格との兼ね合いで、どこでバランスを取るかが課題です。

川口委員 LEDも昔は白い光だったものが、最近は暖かみのある光に改良されてきています。そのように技術の開発を進めている事業者に鎌倉市でチャンスを与えて、どれだけ景観を壊さないものができるか、先ほどコンテストという話がありましたが、実験的な機会があると良いです。

猿田会長 実施計画の中でイベントを実施すると書くのはどうでしょうか、1つ課題ができたのではないのでしょうか。

松永次長 「エコタウンへの誘導」にもありますが、環境面、景観面で優れたものを誘導していけばよいと考えています。リーディングプロジェクトの中でふくらませていければよいと思います。

亀山委員 「鎌倉らしさ」が欲しいと思います。キーワードは「海、山、観光客」だと思います。海に関しては、技術は日進月歩なので、コストに見合うもの、景観に合うものが出て来ると思うので、今後検討して欲しいです。

また、鎌倉に来るたびに潮の香りを感じます。鎌倉というまちは、自然の地形からくる恩恵を受け、夏涼しく冬暖かい。自然の恩恵を受けていることを、市民が意識して暮らすことが必要ではないのでしょうか。これは環境教育に繋がっていくので、行政側から市民の意識づくりをアピールしてもよい点ではないのでしょうか。

「屋上緑化」についての記載がありますが、物足りません。鎌倉は建物の屋上に緑が少しあるのではなく、昔からの大木が守られている、そうあるべきではないのでしょうか。古い住宅地の古い木が宅地分譲で伐採されているのを、私有地であるがゆえに守れない。規制で止めることはできなくても、住民の気持ちで守っていくような意識づくりが必要であり、そこに行政がかかわっていけると良いと思います。

「観光客」については、店舗は夏も冬も扉を開放していて、エアコンの空気が外に逃げてしまいます。商店街との協定でエコの為に扉を閉めるなど、観光客をもてなしながらも今までよりエネルギーを使わない方策を検討してはどうでしょうか。交通に関しても同様です。

進行管理について、毎年、あるいは3年ごとに1度、何を見直すのかが分かりません。リーディングプロジェクトによって毎年どれくらい目標に向かっているのかの進行管理をぜひやって欲しいと思います。進行が滞っているものに対する追加的施策は、毎年やっていかなければなりません。エネルギー施策推進委員会に報告するだけでなく、市民への幅広い周知も必要です。3年に1度は何を見直すのか、例えば2030年の目標数値も見直すのでしょうか。

松永次長 リーディングプロジェクトとは個別の計画の束であり、中には1年で最終するものもあります。毎年度、その時々 of 優先度に応じて、何をやっていかなければならないかがあると思っています。1年に1度はリーディングプロジェクトの進捗を確認しますが、これが一番の評価対象であり、リーディングプロジェクトがきちんとできていれば、おのずと結果がついてくると考えています。

3年に1度程度の見直しは、基本方針の方向性についての確認作業を考えており、それに伴ったリーディングプロジェクトの見直しも行うというように進行管理を考えています。

鎌倉らしさについては一番難しいところですが、今後の技術革新を本市のエネルギー施策に反映するというあたりに、期待したいと思います。緑については、エコタウンの進行の中でやっていきたいと思っています。

亀山委員 何をPDCAにかけるのか、具体的に検討対象を書き加えて欲しいと思います。

郷原委員 鎌倉らしさについて、環境が良いからとよそから来た人と違って、権利義務者を果たさなければならない市民の権利が阻害されるようなことが無いように、意見があったということを明確にしてほしいです。木にも寿命があり、人間が適切に管理することが必要ですが、今の山の木は手入れが足りない状況です。鎌倉はもともと里山で、昔は木が大きくなりすぎる前に切っていましたが、今はそのような仕組みは無くなりました。管理義務者だけが責任を負わなければならないような樹木ばかりです。人に迷惑がかかる恐れがあり、木を切らざるを得ない場合もあります。

行政が費用を出しますというところまで面倒を見なければ、鎌倉らしさで緑を残せという意見を出すべきではないと思います。

川口委員 大規模開発で、山の稜線を作ってきたような木を切ることが問題です。開発時に緑地を20%残さなければならないなら、昔からなじんでいる景観部分をなるべく残して欲しいという意見が、事業者にはなかなか聞き入れられない場合があるのが気になります。地権者が責を負わなくてはならないものは、例外だと思っています。

郷原委員 開発業者は一旦更地にして、新たに植樹をすれば良いと思います。山は手

入れをしなければ崩落等の事故は必ず起こります。稜線は、土地の境界になっていることが多いので、その木は手を付けられず残っているだけの話です。

猿田会長 開発業者は、そういった点で少しは配慮があってもいいだろう、宅地化する土地の一部を残すならば場所を考えて残すことも可能でしょう、ということです。市全体の計画の中でバランスがとれるような対応で、事業者にもそれなりの責任を負ってもらいたいです。

川口委員 事業者としては、木を切りまっすぐ道路を通すほうが簡単でしょうが、今はいろいろな手法があります。道をまげて木を残した方がむしろ宅地としてのステイタスになる場合も出てきています。例えば都心の世田谷区でも、保存樹林で大きな木を残しているお屋敷があり、良い雰囲気を保っています。事業者と行政の間でうまく調整しながら、環境を保全していくコンセプトが必要です。

郷原委員 全否定しているわけではなく、意見を言わない権利者、市民が多いので、あえて発言しています。基本計画をより現実的なものにしたいので、このような意見を述べています。

猿田会長 声を上げない市民の意見をどう吸い上げるかも、大事なことです。来年度の実施計画は実現しなければならないものを書いていくので、地に足の着いた対応が必要です。基本計画はそのベースなので、しっかり対応していかなければなりません。

村田委員 市民から寄せられた声を、コラムにしたのは良かったです。これからまたやろうというモチベーションになっていくと思います。専門的意見の中に市民の意見が生きていき、自分の意見が入っているからやっつけよう、ということになると思います。広報でもここに書いたことを知らせると良いし、これからも行政の施策に市民意見を反映する仕組みがあると良いと思います。

市民の行動、事業者の行動は掲載されていますが、市の行動がどこに書いてあるのかなと思いました。市民や事業者の行動に並べて箇条書きにすると、見る人が迷わないと思います。

松永次長 市も事業者なので、対策は事業者と重なってきます。市が実施するのは、市民・事業者がエネルギーに関わりやすい環境を整備することで、それはまさに計画本体にあたります。市が何もしないというわけではありません。

村田委員 今おっしゃって頂いたことを、まとめればよいと思います。何も知らない人が、市は何もしないと見るともったいないです。

二松委員 鎌倉らしさどこで出すかですが、先進都市として県より10%高い省エネの目標を掲げる、これを強く出してはどうでしょうか。また、例えば市の地形等を利用した新エネルギーの創出といった市の特徴とつながるものが入ってくれば、鎌倉らしさが出るのではないのでしょうか。

松永次長 次回までに、第2章に鎌倉市の地域特性や現状把握を書き入れて、提示する予定です。

猿田会長 今までにも「鎌倉らしさ」が議論されたことがありましたが、明確な結論

は出ませんでした。

小田委員 感想ですが、市民の側からどう行動するかが大事ですし、ワールド・カフェの話をもてみると、コミュニティづくりのようなものがあり、これが鎌倉をつくっているものなのかな、市民参加型とエネルギーを基本計画の中でどう書けるのか、それが難しいと感じました。市民ファンドをつくるのもひとつの例ですが、「市民の行動」という部分にリーディングプロジェクトが書けるのか、市民参加をどうやっていくのかなと思いつつ聞いていました。

風力発電は1本2,000kWから5,000～8,000kWと大型化し、大型化するほど経済性が高くなっています。一方で、小規模な違う発想のものもあります。ここで書こうとしているものはポテンシャルであり、量的に数を期待するものを書くのだという理解がありつつ、小さいものをたくさんつける面白さもあり、そのあたりをどう書くのかなと思いました。

風車の場合は景観的に難しいですが、風車、太陽光発電設備が美しいという発想の転換もあり、やはり環境教育なのかという気もしますし、長い目で見ていくことがひとつの答えなのかなと思いました。

猿田会長 費用対効果を含め、計画の中でどう対応していくのかという問題があります。かなり長期の計画を立てていますが、長期的にみても費用対効果に対応しきれないが、環境の視点でやらなくてはならないものもあるかもしれません。今日頂いたご意見をベースに一度整理していただきたいと思います。

鎌倉らしさについて、ある意味では抽象的な表現ですが、物的・技術的な対応で表現できるのであれば、どのように入れていくのか、整理してください。

議題2 「その他について」

猿田会長 ほかにご意見やご意見がなければ「その他」に移らせていただきます。では事務局から説明をお願いします。

柳沢補佐 次回、平成25年度第4回環境審議会の開催日程等について説明。

猿田会長 次回開催日は事務局からあらためて連絡してもらいます。以上で本日の議事を終了しましたので、閉会と致します。